

平成15年度 瀬棚町普通会計 バランスシートを公表します！

瀬棚町は、現在の会計では表に出てこない試算・負債のストック情報を多角的に分析し、財政状況を判断するため、平成14年度より「バランスシート」を作成しております。

「バランスシート」 (貸借対照表)とは…

バランスシートは、一般的に「貸借対照表」ともいわれています。主に民間企業がその決算や財務の状況を表す共通の「物差し」として作成しており、所有する資産の内容や資産を取得するための借入金などといった将来の負担、そして、その差である正味資産がどれくらいあるかを説明したもので財務の運用状況が一目でわかる表のことです。

返済義務のある負債がいくらか、返済義務のない正味資産がいくらかを右側で表示し、その調達した資金の運用状況を左側に表示するため必ず左右が一致することからバランスシートと呼ばれています。

作成上の基本事項

総務省の「地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究会報告書」に従って作成しております。統一基準に基づいて作成することにより、ほかの地方公共団体との比較が可能となります。

ポイント

- 1 作成対象会計は「普通会計」とし、基本的に用いるデータ資料は毎年度総務省に報告している指定統計「地方財政状況調査(通称「決算統計」)」とする。なお、データが電算記録保存されている昭和44年度以降の調査を用いています。
- 2 資産の当初設定金額は取得原価主義(取得に要した実際の支出額)としています。
- 3 減価償却は※1定額法で行うこととし、※2耐用年数の設定は国の統一基準により費目ごとにまとめて決定する方法で作成しています。なお、土地については消耗しないことから減価償却は行いません。
- 4 毎年度の最終日を基準日としています。(出納整理期間の出納は、基準日までを終了したものとみなしています。)

※1 定額法とは、減価償却の計上額が毎会計年度一定となる方法です。

【例】 公営住宅を1億円で建設した場合

住宅の耐用年数は40年とされているので1年当たりの減価償却は「1億円÷40年=250万円」となり、毎年度250万円を均等に償却することにより40年後にはバランスシートの計上額がゼロとなる仕組みです。

※2 有形固定資産の減価償却に用いる耐用年数表

区分	耐用年数	区分	耐用年数	区分	耐用年数							
1 総務費	(1) 庁舎など 50 (2) そのほか 25	(5) 漁港	50	ア 街路 15 イ 都市下水路 20 ウ 区画整理 40 エ 公園 40 オ そのほか 25 (8) 住宅 40 (9) 空港 25 (10) そのほか 25								
		(6) 農業農村整備	20									
		(7) 海岸保全	50									
2 民生費	(1) 保育所 30 (2) そのほか 25	(8) そのほか	25			8 消防費 (1) 庁舎 50 (2) そのほか 10						
		6 商工費	25									
3 衛生費	25	7 土木費	(1) 道路					15	9 教育費 50 10 そのほか 25			
			4 労働費					25			(2) 橋りょう	60
5 農林水産業費	(1) 造林 25 (2) 林道 15 (3) 治山 30 (4) 砂防 50		(3) 河川					50			8 消防費 (1) 庁舎 50 (2) そのほか 10	
			(4) 砂防					50				
			(5) 海岸保全					50			9 教育費 50 10 そのほか 25	
			(6) 港湾	50								
(7) 都市計画	50											

以上のことを踏まえて作成したバランスシートが次の表です。

何事もバランス
が大切だね!!



平成15年度 瀬棚町バランスシート (平成16年3月31日現在)

借方		貸方	
[資産の部]		[負債の部]	
1 有形固定資産		1 固定負債	
1 総務費	10億7,315万円	1 地方債	48億7,802万円
2 民生費	10億3,292万円	2 債務負担行為	446万円
3 衛生費	1億7,696万円	3 退職給与引当金	3億9,564万円
4 労働費	2,005万円	固定負債合計	52億7,812万円
5 農林水産業費	19億4,452万円	2 流動負債	
6 商工費	4億153万円	1 翌年度償還予定額	6億2,485万円
7 土木費	70億1,045万円	2 翌年度繰上充用金	0万円
8 消防費	556万円	流動負債合計	6億2,485万円
9 教育費	27億6,109万円	負債合計 59億297万円	
10 そのほか	87万円	[正味資産の部]	
有形固定資産合計	144億2,710万円	1 国庫支出金	20億2,745万円
(うち土地 5億5,496万円)		2 道支出金	13億7,506万円
2 投資など		3 一般財源など	58億6,354万円
1 投資及び出資金	2億141万円	正味資産合計	92億6,605万円
2 貸付金	1,841万円	資産合計 151億6,902万円	
3 基金	1億9,126万円	負債・正味資産合計 151億6,902万円	
投資など合計	4億1,108万円		
3 流動資産			
1 現金・預金	3億1,278万円		
2 未収金	1,806万円		
流動資産合計	3億3,084万円		
資産合計	151億6,902万円		

やすらぎ館や瀬棚保育所などを建設するため国などから借りているお金のうち、1年以上の期間をおいて返すお金です。

年度末に全職員が普通退職すると仮定した場合に全職員に支払わなければならない退職金総額です。

国などから借りているお金のうち、1年以内に返さなければならぬお金です。

資産を形成するために使ったお金のうち、国や道からの補助金、税金などの総額です。これらのお金は返済する義務がないため正味資産(純資産)とします。



↓ もっと分かりやすく例えると…

町一世帯あたりのバランスシート (平成16年3月31日現在 1,139世帯)

借方=資産	貸方=負債+純資産
有形固定資産=マイホームや土地、車など 1,267万円	負債=マイホームなどのローン残高 518万円
投資など=定期預金など 36万円	正味資産=資産形成のための自己資金 814万円
流動資産=現金や普通預金 29万円	
計 1,332万円	計 1,332万円



「バランスシート」からわかること

ここでは、総務省の報告書による財務分析など、いくつかご紹介いたします。

■ 社会資本形成の世代間負担比率

公共施設などの社会資本（資産）の形成が、どの世代の負担に多く依存しているのかを表し、次の①が②より多いことが望ましいと言われています。

①国・道支出金や一般財源などによりこれまでの世代がすでに負担した金額の割合。（参考：この比率は企業会計における「自己資本比率」に相当し、一般的に50%以上が目安とされています。）

$$\frac{\text{正味資産合計}}{\text{資産合計}} \times 100 = \frac{92\text{億}6,605\text{万円}}{151\text{億}6,902\text{万円}} \times 100 = 61.1\%$$

②これからの世代に負担してもらうこととなる金額の割合。

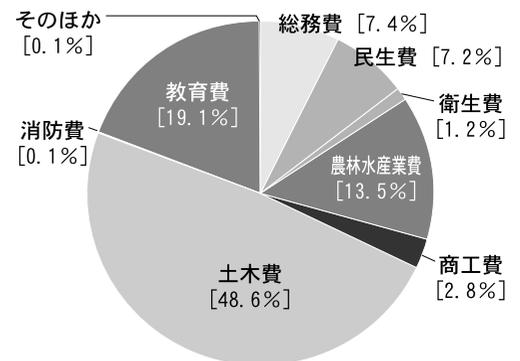
$$\frac{\text{負債合計}}{\text{資産合計}} \times 100 = \frac{59\text{億}297\text{万円}}{151\text{億}6,902\text{万円}} \times 100 = 38.9\%$$

■ 有形固定資産の行政目的別割合

次の表とグラフは、瀬棚町の有形固定資産の行政目的別割合を表したものであり、行政分野ごとの資産形成の比重を把握することができます。

瀬棚町では、土木費が48.6%、教育費が19.1%と高い割合であり、重点的に整備してきたことがわかります。

目的	主なもの	金額	割合
総務費	庁舎など	10億7,315万円	7.4%
民生費	保育所、やすらぎ館、生活支援ハウスなど	10億3,292万円	7.2%
衛生費	保健センターなど	1億7,696万円	1.2%
農林水産業費	町民センター、漁村センター、茂津多林道など	19億4,452万円	13.5%
商工費	三本杉海水浴場休憩所など	4億153万円	2.8%
土木費	道路、港湾、公営住宅、定住者住宅など	70億1,045万円	48.6%
消防費	災害備蓄用備品購入など	556万円	0.1%
教育費	小中高等学校など	27億6,109万円	19.1%
その他	共済住宅購入費など	2,092万円	0.1%
合計		144億2,710万円	100.0%



参考 有形固定資産のうち主な施設の状況

名称	目的別	取得年度	取得価格	減価償却累計額	残存価格
やすらぎ館	民生費	H8~H9	6億6,144万円	1億9,369万円	4億6,775万円
瀬棚保育所	民生費	H12~H13	1億4,802万円	1,480万円	1億3,322万円
生活支援ハウス	民生費	H14~H15	1億3,834万円	578万円	1億3,256万円
茂津多林道	農林水産業費	H9~H12	7億1,461万円	2億6,599万円	4億4,862万円
瀬棚港マリントウン	土木費	S62~H15	31億7,574万円	6億3,335万円	25億4,239万円
馬場川小学校	教育費	H6~H7	3億7,194万円	7,095万円	3億99万円

バランスシートを公表します！

① 予算額対資産総額

$$\frac{\text{資産合計}}{\text{歳入合計}} = \frac{151\text{億}6,902\text{万円}}{33\text{億}2,869\text{万円}} = 4.58\text{年}$$

② 予算総額対正味資産額

$$\frac{\text{正味資産合計}}{\text{歳入合計}} = \frac{92\text{億}6,605\text{万円}}{33\text{億}2,869\text{万円}} = 2.78\text{年}$$

※①、②の歳入合計は「決算統計」数値であり、町議会に提出された決算認定の金額ではありません。

③ 予算額対資産比率
 次の予算額対資産総額についてですが、この「予算対資産比率」は、ストックである資産が何年分の歳入に相当するかを表し、この比率が高いほど社会資本の整備に重点がおかれていたこととなります。
 また、「予算総額対正味資産額」は、これまでの世代による社会資本形成（正味資産）が、何年分の歳入に相当するかを表します。

平成15年度 瀬棚町バランスシート（町民1人あたり）

平成16年3月31日現在 人口2,757人

勘定科目	町民1人あたりの金額	勘定科目	町民1人あたりの金額
[資産の部]		[負債の部]	
Ⅰ有形固定資産	523万2,900円	Ⅰ固定負債	
		1 地方債	176万9,321円
		2 債務負担行為	1,617円
		3 退職給与引当金	14万3,504円
		固定負債合計	191万4,442円
Ⅱ投資など		Ⅱ流動負債	
1 投資及び出資金	7万3,054円	1 翌年度償還予定額	22万6,643円
2 貸付金	6,677円	2 翌年度繰上充用金	0円
3 基金	6万9,372円	流動負債合計	22万6,643円
投資など合計	14万9,103円	負債合計	214万1,085円
Ⅲ流動資産		[正味資産の部]	
1 現金・預金	11万3,450円	1 国庫支出金	73万5,382円
2 未収金	6,552円	2 道支出金	49万8,753円
流動資産合計	12万2円	3 一般財源など	212万6,785円
		正味資産合計	336万920円
資産合計	550万2,005円	負債・正味資産合計	550万2,005円

④ 町民一人あたりの「バランスシート」
 通常のバランスシートの数値を人口で割って、一人あたりの額を出すことにより、ほかの自治体と簡単な比較ができます。

瀬棚町一人あたりの資産額は550万円と算出されました。総務省がまとめた平成12年度における「町村平均（506町村）248万円」と比較して多いといえます。※総務省の公表数値が平成12年度公表のものしかなく少し古い数値となっております。



「バランスシート」について少しでも理解いただけたでしょうか？

今後できるだけ分かりやすく町民の皆さんに情報を提供していきたいと考えておりますのでよろしくをお願いします。

【担当：財政税務課財政係 古畑・稲船】